

専門ゼミB		教授 丸山 高行	
科目カテゴリー	国際ビジネス学科の必修科目	科目ナンバリング	21300302

1. テーマ

「企業研究」（企業活動が関係する業界動向や社会現象に関する研究も含む。）

2. ゼミのねらい・概要

現在、活躍する企業の経営状況や将来性について、投資家やアナリストの立場に立って分析するための基礎技術を習得することが、本ゼミのねらいである。具体的には、メーカー、商社、金融、ホテル、レジャーといった業界から代表的な企業を1社選び出し、様々な角度から分析・研究する。ゼミ担当者は生命保険会社出身、証券アナリストおよびFP1級資格保有者。なお、希望するゼミメンバーには、金融・ファイナンス関係の各種資格取得の指導も行う。

3. ゼミ計画（個別企業は、あくまで例示である。研究対象業界・企業ともに、ゼミ生自身で決めてよい。）

1. 前期の復習と後期の学修内容のガイダンス	9. 各企業の回答の確認（㈱オリエンタルランド）
2. 講義「企業分析（応用編）①」（企業業績と株価）	10. 相互討議とまとめ（新日鐵住金㈱）
3. 講義「企業分析（応用編）②」（企業年金制度）	11. 相互討議とまとめ（三菱商事㈱）
4. 講義「企業分析（応用編）③」（商品・ブランド戦略）	12. 相互討議とまとめ（住友生命保険(相)）
5. 各企業の回答の確認（新日鐵住金㈱）	13. 相互討議とまとめ（㈱三井不動産ホテルマネジメント）
6. 各企業の回答の確認（三菱商事㈱）	14. 相互討議とまとめ（㈱オリエンタルランド）
7. 各企業の回答の確認（住友生命保険(相)）	15. 全体の振り返りとまとめ、研究レポートの完成
8. 各企業の回答の確認（㈱三井不動産ホテルマネジメント）	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

①ゼミメンバーは担当業界・企業について最低週2時間を確保し、下記参考文献やHP、関連する論文・資料等から積極的に情報収集する。

②発表内容や発表方法は各班に任せるが、必ず3時間以上をかけて相談の上、入念に事前準備に取り組むこと。また、発表にあたっては、ゼミ全体で議論が深まるように工夫すること。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

基本的に前期と同様、①ゼミ担当者からの分析技術についての講義→②研究対象業界・企業についての公表資料に基づく基礎分析と発表→各企業への質問事項の取りまとめと送付→回答を踏まえた研究レポートの完成という流れでゼミを進める。ゼミのメンバーを業界ごとに5班程度に分け、研究対象企業をゼミ生自身で決めてもらう。また、研究発表や研究レポートの取りまとめは、班ごとに相談の上、協同作業で進めてもらう。

ゼミ担当者からは、発表のつど、さらに研究を進めるべき点を多方面にわたって指摘するので、発表班は次の発表機会までに、指導を受けた内容を的確に自身の研究内容に反映すること。また、発表の際は相互ディスカッションの時間を設けるので、発表班以外のメンバーも、発表内容や指摘されたコメントを参考に、自身の研究のレベルアップに努めること。

6. ゼミにおける学修の到達目標

1年間のゼミ学修の成果として、証券アナリスト的な視点に立って、担当業界や企業についての的確なレポートが書けるようにする。また、レポートの内容や分析した資料・データを、卒業論文や就職活動に役立てる。

7. 成績評価の方法・基準

研究レポートの内容（60%）および相互ディスカッションを含めたゼミに対する取り組み姿勢（40%）。

8. テキスト・参考文献

テキストは使用しない。参考文献として、下記の資料を挙げる（変更がありうる）。

①西山茂『企業分析シナリオ（BEST SOLUTION）第2版』東洋経済新報社（2006）

②㈱KPMGFAS『図解でわかる企業価値評価のすべて』日本実業出版社（2011）

また、各班の研究内容に応じて、必要と思われる文献や資料などを個別に指示する。

9. 受講上の留意事項

担当する業界や企業だけでなく、様々な業界や企業の動向、さらには経済環境の変化に関心を持ってもらいたい。

なお、後期も班単位で担当企業の研究に取り組むが、並行して卒業論文の準備として、ゼミ生自身が希望する研究対象業界・企業を絞り込んでいく作業を進める。